

個別行動目標(学習・評価項目を参照)

担当診療科・集合場所(時間割参照)・出席表参照

持ってくるもの

学習の手引き、白衣、名札、聴診器、ハンマー、ペンライト、筆記用ボード、筆記具

服装など

持っていれば、ジャージまたは短パンツを持ってきてはきかえてください。

女子学生どうして練習したい場合はスラックスや、ジャージなど適切な服装を準備してください。

前日、入浴しておいてください。

教材

カルテ用紙、外来診察室(ベッド、血圧計、バスタオル)

診察用具セット(ピン車、音叉、筆、香水、ティッシュ、検眼鏡、舌圧子)

実習の進め方

1. 教員による実習の説明
2. 教員による1回目の模範診察
3. グループ作り。原則として3人1組か2人1組をつくり、それぞれの役割(患者役・医師役・観察者)の順番を決めます。
4. ロールプレイ資料(2)を参考にして神経系の診察を練習します。観察者は途中で誤りがあれば指摘します。診察技法についての疑問点はそれぞれメモしておき、2回目の教員の模範診察の前に質問してください。
5. 教員による2回目の模範診察。
6. 疑問点を解消し、誤った点を修正して再度ロールプレイ。
7. 時間があればカルテ用紙(学習の手引き)に神経学的所見を記入する練習。

ロールプレイ中の役割とコツ

① 患者役(50歳くらいの非医療者の方を想定)

- a. 医師役の指示を受ける前に適切な体位を取るなど、不自然に協力的な態度は取らないこと。

- b. 取るべき体位、姿位に関する医師役からの指示、その他の声かけや配慮について、非医療者としてわかりやすかったり、不安が和らいだり、心地よかったりした場合、あるいは逆に、指示の意味が分からなかったり、診察中に痛い、冷たいなどの感覚を感じた場合は、積極的に医師役にフィードバックすること。

② 医師役

- a. 面接技法の最後のステップ(診察への導入)から始め、診察手順を省略せず
にすべて実行すること。
- b. 50歳の方を想定して練習してください。各手順の前に患者さんに声かけし「何
をする／何が起こる／どうしてほしいか」を伝えること。声かえ事例集を参考に
してください。
- c. 診察中に自分が患者役に与えていそうな感覚については、その有無を積極的
に尋ねてみよう。(例)「痛くありませんか?」、「寒くないですか?」など。
- d. 診察中の表情の変化、体のささいな動きなど、非言語的な表現にも注目し、適
切な声かけをしよう。(例)「少し痛かったですね、申し訳ありません」など。
- e. 診察法について疑問点があれば、あとで質問すること。

③ 観察者

診察の各項目について次の点を観察し医師役に助言する。

- a. 手順は正しいか?
- b. 実行していない技法はないか?
- c. 疑問に感じた技法
- d. 声かけできたところと、すればもっと良くなると思われたところ
- e. 患者役に不快感が起こっていきそうに見えたところ

ロールプレイ後の自己学習

神経診察の練習はロールプレイを1回ただけでは全く足りません。この実習は自
分で練習することを介助するに機会にすぎませんので、これを参考にして、小グルー
プで集まり、資料を見なくてもスラスラとできるようになるまで、お互いに繰り返し練習
してください。